

新宮山彦ぐるーぶ第1933回

行仙宿にて三井寺奥駈修行(玉置神社く前鬼)の湯茶など接待

◇実施日：平成29年05月26日(金) 曇り後時々晴

◇参加者：樋口義也、川島 功、沖崎吉信、橋本 梓、山川治雄、
畑林秀味・清子、奥村順夫。 8名。

行仙宿への同行者：伊藤 信(カメラマン)

三井寺の今年の奥駈行は、玉置神社く前鬼山小仲坊が企画され、26日に持経宿に宿泊。宿泊に伴う食事は、三井寺さんが賄うとの事から、池郷林道から車を乗り入れ、持経宿へ食料等を運ぶ必要があり、池郷林道ゲートの鍵を貸与することにした。

その後、三井寺・福家俊彦執事長より、奥駈行の際に写真撮影の取材をするので、京都市の写真家・伊藤 信カメラマンを行仙宿に同行案内の依頼がある。計画書が秋田修験道部長から送付され、玉置神社1時出発、行仙宿12時10分着予定になっていることから、工事規制の8時前に通過する事にする。

出版の(株)精興社・浜口龍之介氏から伊藤氏は、玉置神社で取材を終え25日駅前ステーションホテルに送り宿泊の連絡があり、国道425号線の落石防止工事の通行規制の関係から「伊藤氏を6時20分にホテルへ迎えに行く」ことを連絡確認する。

夜半の雨も止み薄曇りの天気である。沖崎車が伊藤カメラマンを迎えに行き、川島宅で合流(伊藤氏乗換)、沖崎車は山川宅に立寄り、先行した川島車は国道169号線の小阪で樋口、奥村氏を乗せる。沖崎車と合流し、工事規制の10分前に通過し、登山口に8時10分着。

モノレールを下ろし、今日の食材(味噌汁食材+甘夏柑30個)と明日の熊野修験一行の宿泊食材(一斗缶2缶+水ポリタン7個6個)等を積み川島が運転。伊藤カメラマンは、大事な写真機材の入ったザックを背負って登る。



モノレールに荷を積む。



M機終点で手分けして荷作り



モノレール終点で手分けして、水ポリタン等を手に持ったりして、少々無理をして一回で運び上げる。

9時過ぎに到着した川島は行者堂に幟を立て、畑林さんはカマドに火を、橋本さんはカマド用の焚き木準備するうちに、9時15分頃に行仙宿に全員が到着し、それぞれ準備の作業をした後、9時45分頃からコーヒータイム。伊藤カメラマンに自己紹介をして頂く。



行者堂前に到着



コーヒータイム



佐田ノ辻に昼食のベンチ

味噌汁約40人分(わかめ+油揚げ)とお茶8個、やかん2個、紅茶

50やかん1個分を作る事にする。

青空ものぞき天候が回復し、佐田の辻付近で昼食をする事に決
め、ベンチ・食器類等を運び準備する。

畑林さんは、卓上コンロを殆んど使わず、カマドで湯を沸かし、
味噌汁は山川さん等手伝うが、大半畑林さんが孤軍奮闘で頑張っ
て、お茶、紅茶を作って下さる。

ほぼ準備を終え、橋本、畑林秀味氏は、伊藤カメラマンと三井
寺一行を迎え方々写真撮影に行かれる。

その後、残った者で11時15分頃から昼食にする



カマドで湯を沸かす

到着前に昼食

準備が整い到着を待つ

橋本、畑林氏が12時過ぎに戻り、大桧傍の八大金剛童子を
越えた尾根まで登り迎えて引き返して来た、到着は12時半を
過ぎるだろうと。程なく八大金剛童子で勤行の法螺の音がする。

12時35分予定より25分遅れで到着され、一行(27名)
の中に浅村朋伸仏師、会友の椎木・今野氏も参加されている、
最後尾の顔見知りの福家紀明執事、座間光覚宗務総長に挨拶し
て迎える。午前3時頃まで雨と言うよりも霧雨だったそうです。

座間正先達を導師にて、般若心経とご真言の勤行がなされ、
昼食となり、味噌汁+お茶+紅茶で弁当を食べて頂き、甘夏柑を
差し入れた。



行仙宿に元気に到着

最後尾



行者堂で般若心経・ご真言の勤行

昼食中



昼食中

出立準備

味噌汁、お茶、紅茶は、完飲で味噌汁特に紅茶が少なかった様に感じ、次回の接待時に活かしたい。

13時10分過ぎに、法螺の音と共に元気に持経宿へと出立され、「満行されますようにと！」見送る。
尚、伊藤カメラマンは、明日の小仲坊まで一緒に同行し撮影取材。



持経宿へと出立！

国道425号線の通行可能時間帯(14:40～15:00)に間に合う様に急いで後片付けをする。明日、熊野修験(25名)が、行仙宿に宿泊のため、行者堂の幟の一部は立てたままにする。

13時40分記念撮影をして下山する。尚、水ポリタン5個は、登山口水場に持ち降ろした。

モノレールで下山時、川島の背負子がモノレールよりはみ出しが少し大きく、駐機小屋を通過時に支柱の単管パイプに当り背負子のアルミフレームが変形する不始末があったが、大事に至らなかった。

通行規制解除前の14時35頃通過し、沖崎車は北山村經由、川島車は、熊野市經由に分かれて帰宅した。



下山前の撮影

(記
川島)